

ア 学習資料の意図的・計画的な活用

① 4・4・4の学習内容の体系化に伴う学習資料の作成

「かかわる授業のつながり」を研究するうえで、学習指導要領に示された態度の内容について理解を深めることが大切である。

平成25年度から南那珂地区中体連では、生徒相互の教え合いや学び合いを通して、生徒の興味関心を高めるための指導方法の工夫を領域「ダンス」と「体育理論」の実践を行い、研究を進めてきた。

研究を進める中で、発達段階に応じて、関心・意欲・態度に関わる内容についての評価の考えや観点について考えることが必要となった。そのため、12年間の各発達段階で明記された内容を整理し、態度の内容に関する系統表を作成することが必要となった。

また、「つながりのある学習」の研究を進めることから、小・中・高・特合同研究部会で「態度」の内容を盛り込んだワークシートの作成をすることも必要となったため、各体連の資料をもとに作成した。

態度の系統表

	小学校1・2年	小学校3・4年	小学校5・6年	中学校1・2年	中3、高校入学年次	高校その次の年次以降
ア 共通事項	① 進んで取り組もうとする。			② 積極的に取り組もうとする。	③ 自主的に取り組もうとする。	④ 主体的に取り組もうとする。
イ 公正	① 順番やきまりを守ろうとする。	② きまりを守ろうとする。 ③ 活動の結果を受け入れようとする。 (ゲームのみ)	④ 約束(ルールやマナー)を守ろうとする。	⑤ 勝敗やよさ(よい演技)を認めようとする。 ⑥ ルール、マナーを守ろうとする。 ⑦ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとする。 (武道のみ)	⑧ 勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする。 ⑨ フェアなプレイを大切にしようとする。 ⑩ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする。 ⑪ 互いの違いやよさを認めようとする。 ⑫ よい演技を讃えようとする。	⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫は中3・校入学年次の表記と同じ。

ウ 協力	① だれとでも仲良く活動できるようにする	② 友達と励まし合おうとする。 ③ 活動の結果を受け入れようとする。	④ 友達と助け合おうとする。	⑤ 仲間の学習を援助しようとする。	⑥ 仲間の学習を援助しようとする。 ⑦互いに助け合い、教え合おうとする。	⑧ 互いに助け合い、高め合おうとする。
エ 責任	① 用具の準備や片づけを友達と一緒にする。		② 分担された役割を果たそうとする。	③ 分担した役割を果たそうとする。	④ 自己の責任を果たそうとする。	⑤ 役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとする。
オ 参画				① 話し合いに参加しようとする。 (球技のみ)	② 話し合いに貢献しようとする。 (球技のみ)	③ 合意形成に貢献しようとする。
カ 健康・安全	① 場の安全に気を付けようとする	② 場の安全を確かめようとする。	③ 場の安全に気を配ろうとする。	④ 健康・安全に気を配ろうとする。	⑤ 健康・安全を確保しようとする。	

各体連の取り組み

		小学校	中学校	高等学校	特別支援教育
(1) 4・4・4の学習内容の体系化に伴う学習資料		① 動きの類型図の作成と活用 ② 態度の評価を盛り込んだワークシートの作成と効果的な活用	① 態度の評価を盛り込んだワークシートの作成と効果的な活用	① 態度の評価を盛り込んだワークシートの作成と効果的な活用	① 教材教具の工夫 ② 視覚的な支援 ③ 小中高の連携
切にする授業展開 (2) かかわり合いを大	① かかわり合いの人との	○ グループ編成の工夫	○ グループ編成の工夫	○ リトルティーチャーの活用	○ 障がいの程度に応じたグループ編成の工夫
	② かかわり合いの教材と	○ ウォーミングアップで心身をほぐす。	○ 単元計画表の作成	○ スキルアップテキストの効果的な活用	○ かかわり合いが必要となる運動の開発

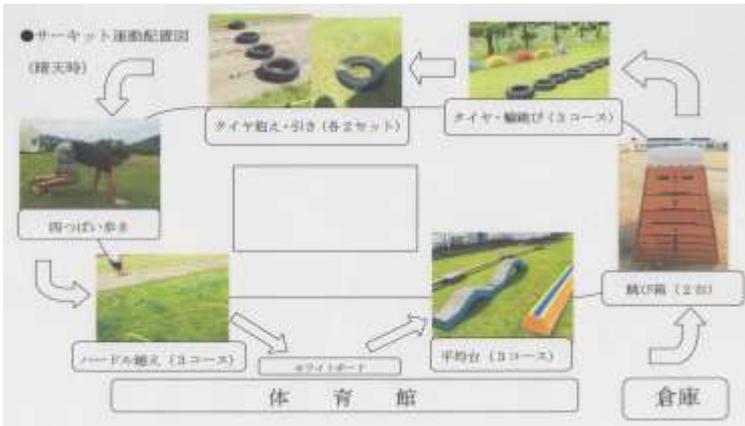
② 学習資料の活用の仕方の明確化

各体連で作成してきた資料や研究内容を整理し、ワークシートの作成とその活用の仕方について整理した。また、学習活動を通して、「わかる（知識、思考・判断）・できる（技能）」と「かかわる（態度）」がバランス良く身に付く学習活動になるよう、ワークシートや資料を活用する必要があるのではないかと考えた。

発達段階に応じて、どのタイミングで資料を活用し、生徒相互の学びを通して、学びの良いサイクルにつながるかを研究の要とした。

小学校	中学校	高等学校
 <p>お習字の予習 用紙 田</p> <p>チェック項目 0・0・△</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「保護運動の約束」を守って活動することができたか。 2 友達と協力しながら進んで活動することができたか。 3 友達のおいところを見つけることができたか。 4 「はじめ・中・終わり」をつけたおもしろい表現ができたか。 5 自分やグループに合った動きを遊ぶことができたか。 <p><感想></p> 	 	

特別支援教育

	
---	--

イ かかわり合いを大切にする授業展開

① 児童・生徒の発達段階に応じた「態度を育てる授業」のつながりとゴールイメージ

「つながりのある学習」における「つながり」は、「技能」「態度」「知識、思考・判断」といったそれぞれの学習内容を確実に身に付けさせるために、指導者は「児童・生徒の発達段階に応じ、それぞれの段階で何を学び、何を学ばせなければならないのか、どのように引き継ぐのか」といったつながりを意識した考え方を理解し、学習内容を構築する必要がある。

そこで、日南・串間地区ではかかわり合いを大切にする授業展開（態度を育てる）を重視した研究を行ってきた。

日南・串間地区としてのゴールイメージ			
	小学校	中学校	高等学校 ゴール
12年間で身に付けさせたい態度	○ 進んで取り組む	○ 積極的に取り組む	○ 主体的に取り組む
		○ 自主的に取り組む	
	○ 約束を守り、助け合う。	○ 認め合う	○ 互いに共感し、助け合う
		○ 援助し合う	○ 互いに助け合い、高め合う
		○ 教え合う	
	○ 分担された役割を果たす	○ 分担した役割を果たす	○ 役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たす
	○ 話し合いに参加する	○ 合意形成に貢献する	
○ 安全に気を配る	○ 健康・安全に気を配る	○ 健康・安全を確保する	

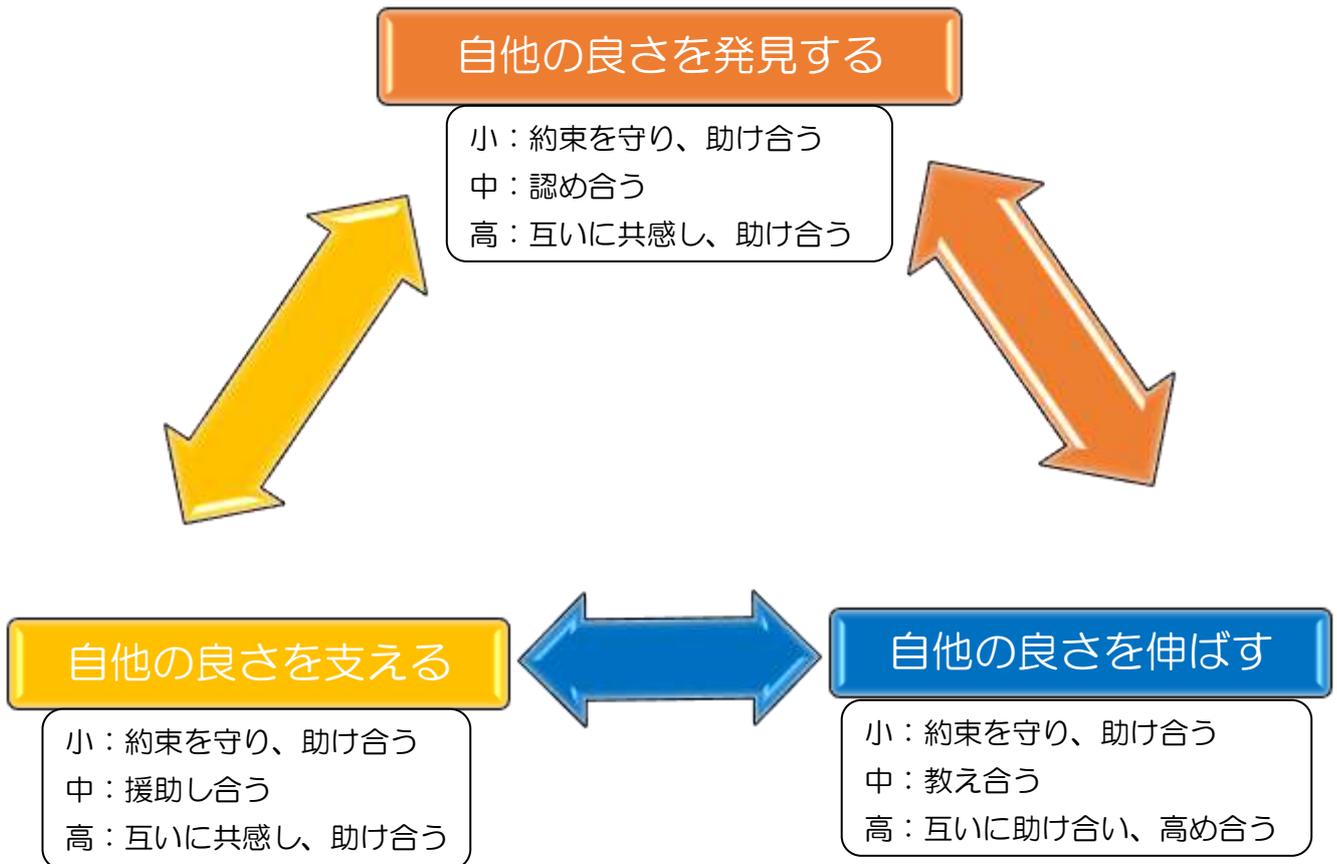
② 児童・生徒の発達段階に沿った態度を高めるための授業づくりのマネジメント

児童・生徒の発達段階に沿った態度を高めるための授業を構築するための観点として、生徒相互・生徒と指導者・生徒と教材があり、その中で生徒の教え合い、学び合いがあり、個別学習、ペア学習、グループ学習、技能段階別学習が一単位時間のどの場面で必要なのか整理していく必要がある。

そこで展開される体育の授業は、運動の特性や魅力に触れながら運動量が確保され、「かかわる」楽しさや「わかる」楽しさ、「できる」楽しさがある「真の楽しさがある体育授業」になることが大切である。

これらのことを念頭に置いて、小・中・高・特の体育連盟研究部で協議を行い、南那珂地区のゴールイメージを元に共通理解を図り、学習活動の検討を行った。

日南・串間地区としての共通理解（公正・協力）



7 研究の成果と課題

- (1) 小中高特の各部会の研究部長と日南串間地区大会の2年前からコミュニケーションを図って準備してきたため、「つながりのある学習」についてスムーズに研究活動に入ることができた。
- (2) 「かかわる授業」をテーマにあげて研究を進めてきたが、当初は「態度」の内容を12年間でどのように教えるのか具体的な方向性を示すことができず、研究が滞ることもあった。
そこで、日南・串間地区としてのゴールイメージを元に、小中高特の「態度」の内容についての共通理解事項を作成し、研究の柱を明確にすることができた。それに伴い、指導案にも共通理解事項を盛り込むことも確認できた。
- (3) 小中高特の各部会の研究部長で共通理解事項を作成し、「つながりのある学習」の内容についても研究の柱が明確になったことで、学習資料の内容検討や確認を行うことができた。
今後も継続して、授業を行う指導者が授業のどの場面で「態度」について指導するか研究を深めていきたい。
- (4) 「態度」の内容について、今後も継続して研究を進め、「技能」における例示に近い具体的な活動を地区として作成し、日南・串間地区のゴールイメージに近づけていきたい。